

会員各位

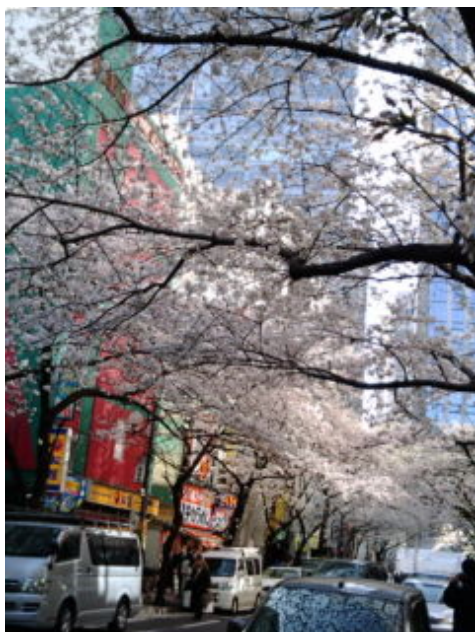
協会だよりー244(4月号)

JCRA (Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

トピックス

- 第27回JSCRA会 (4月12日大洗ゴルフ倶楽部にて) 出席者数は15名です。
- 第38期定期総会を開催いたします。
日時: 4月25日 (木) 15:30より
場所: JXグループ六本木クラブ地下一階和室にて



都会の中の桜も満開です (東京丸の内にて)。

H25. 3. 21
撮影; 岩崎信男氏
(新興化学工業株)



- 一. 協会よりのお知らせ
【実施済事項】
【予定事項】
- 二. 協会役員交代・会員の異動お知らせ。
- 三. 事務局より (四年度の予定)
- 四. 【雑学】おくのほろ道ツアー11-11
越後路・村上・新潟へ

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① 協会だよりー243 (3月号) をメール&郵便で送信 (3/1)
- ② 第3回役員会
日時: 平成25年3月21日 (木) 13:00~14:30
場所: 株徳力本店会議室 (鍛冶町)
議題: 平成24年度の決算と平成25年度の予算
出席: 会長、副会長、会計、理事、監事、事務局
- ③ 第6回運営委員会
日時: 平成25年3月21日 (木) 15:30~17:00
場所: 堺化学工業株会議室 (岩本町)
議題: 平成25年度の月例会検討、担当幹事会社の推薦。
出席: 運営委員、事務局

【予定事項】

- ① 平成24年度会計監査
 日時：平成25年4月8日(月) 15:00~17:00
 場所：太陽鋳工(株)東京支店会議室
 出席：監事、会計、専務理事
- ② 第27回JSCRA会
 日時：平成25年4月12日(金)
 場所：大洗ゴルフ倶楽部
 出席：4組(15名)
- ③ 平成25年度第一回役員会
 日時：平成25年4月25日(木) 14:30~15:00
 場所：JXグループ六本木クラブ四階会議室にて
 出席：会長、副会長、理事、会計、監事、専務理事
 議題：平成25年度の事業計画、予算の承認
- ④ 第38期(平成25年度)定期総会
 日時：平成25年4月25日(木) 15:30~16:30
 場所：JXグループ六本木クラブ地下一階和室にて

2. 協会役員の交代・会員の異動お知らせ。

【役員の交代】

新会長 J X日鋳日石金属株式会社 三浦 章様 (大藤 俊洋会長の人事異動による交代)
 三浦様は当協会第十三代会長に就任されました。

新監事 田中貴金属工業株式会社 林 光蔵様 (角谷 敏男監事の交代)

【会員の異動】 4/1付

会員内の異動がありましたのでお知らせいたします。

- 賛助会員⇒正会員 安田薬品株式会社殿
- 正会員⇒賛助会員 アサヒブリテック株式会社殿
- 退会 株式会社エコ・マテリアル殿

3. 事務局より (4月の予定)

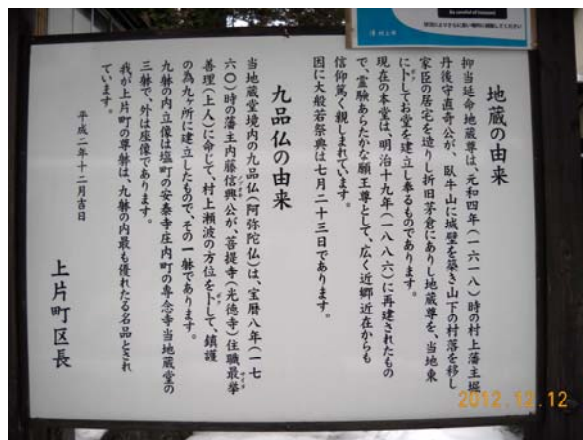
月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6
○	○	×	×	○	×
8	9	10	11	12	13
会計監査	○	×	○	第27回JSCRA	×
15	16	17	18	19	20
×	○	×	×	○	×
22	23	24	25	26	27
×	○	○	第38期総会	○	×
29	30	5/1	5/2	5/3	5/4
昭和の日	×	×	×	憲法記念日	みどりの日

事務局延べ出勤予定：12日(○；終日、△；半日、×は休日)。

4. 【雑学】奥の細道(10-2) 越後路・村上、新潟

前月号に続いて越後路の旅です。村上にある芭蕉さんの句碑をざーとまとめて紹介いたします。

【片町地藏前】村上市上片町



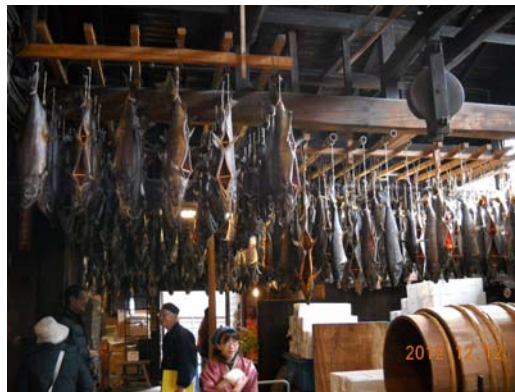
「けふばかり 人も年よれ 初時雨」とあり、この句は元禄五年 江戸麹町喰違橋御門内井伊家中屋敷に滞在していた許六の元で巻いた歌仙の発句として作られたものです。村上との関連は分かりません。

【稻荷神社境内】村上市加賀町



「雲折々 人をやむする 月見かな」は芭蕉さんの百五十回忌に建立されたものです。この句は貞享二年(1685)に読まれ『芭蕉翁真蹟拾遺』によると「西行のうたの心をふまえて」と前書した真蹟があったと言われています。芭蕉さんが敬愛する西行さんの歌『なかなか時々雲のかかるこそ月をもてなすかぎりなりけれ』(山家集)が元歌のようです。

村上といえば、塩引き鮭が有名、バスは越後村上 古典の味 伝承の技と心を守る「喜っ川」に向かいます。名物社長・吉川哲鮭さんより、20分かけて村上の鮭の歴史と、村上の親父天下の話をたっぷりとしていただく。村上では鮭こそが魚で、他は雑魚扱いされていました。江戸時代の一時期、鮭漁が不漁になり村上藩に深刻な問題をもたらしました。村上藩士青砥武平次が鮭の回帰性を信じ、産卵に適するよう三面川の大工事を行い、鮭が遡るようになりました。村上を救ってくれた鮭は天の恵みであるから、この鮭の一部たりとも無駄にせず、頭から尾まで全て美味しく食べてあげなければ申し訳ないという気持ちで作っているとの事でした。



さてこれにて村上に別れを告げ、芭蕉さんも訪れた胎内市の乙宝寺(当時は乙^{きのと}村)に向かいます。

【乙宝寺】 胎内市乙1112

天平八年、聖武天皇の勅願で開山されたという由緒ある真言宗の寺院です。境内の三重塔は慶長十九年(1614)に起工され元和六年(1620)竣工し、国の重要文化財になっています。この境内には滾々と湧き出る清水があります。



どっこんすい
独鈷水と呼ばれ弘法大師が仏具

の一つである独鈷杆(どっこしよ)で「聖地に清水の沸きいずる」と唱えながら地面を着いたところ自噴したといわれています。胎内川の伏流水といわれています。一口いただいてみましたが、甘みがあり、かつ軟らかい味の水でした。

乙宝寺の句碑には「うらやまし うき世の北の 山桜」とあり、金沢の卯辰山柳陰軒に隠棲している句空の境涯を思いやって「うらやまし」言った句です。元禄五年の作といわれていますのでおくのはそ道で詠んだ句ではないようです。

私たちは寺の地階にある宝物院を見学、和尚さんの話あり。裏山の猿が、お経が大好きで寺にやってきてはお経を聞いていたそうです。ある日、和尚さんに木の木っ端を差し出し、経文を書いてくれという仕草をしたので書いてやったら喜んで裏山に戻ったとか。その後猿の寺として有名になったといわれています。門前には乙^{きのと}まんじゅうの店があり、青山添乗員さんの差し入れでご馳走になりました。控えめな甘みで、美味しくいただきました。1時を過ぎ、乙宝寺を後にして高速道路を新潟市内へと急ぎます。まずは空腹を満たすため今日の昼食は新潟ふるさと村で「へぎ蕎麦膳」です。腹が一杯になり元気回復の私たちは信濃川を渡り新潟市内に突入です。

【宗現寺】 新潟市中央区西堀通7

新潟市の中心部で、回りはビルや駐車場に囲まれた曹洞宗のお寺です。この境内にある芭蕉さんの墓は、芭蕉さんが新潟を訪れたとき、古い墓を新しい物と取り替えたという、謂れを記して建立されたものです。別な場所に建立されていたようですが、市内の火災などで数時の移設があり、現在の宗現寺境内に落ち着いたといわれています。



【船江大神宮】 新潟市中央区古町通り1

この神社は船江神社と神明宮が合体した神社です。ここには次の句碑が建立されています。



海に降る 雨や恋しき 浮身宿
 句自体は、おくのほそ道で詠まれたものでは
 ありませんが、新潟では一夜の宿の確保
 に苦労した史実から選ばれたものと思
 います。

曾良の随行日記によると、午後五時過ぎ、新潟に着いたが、下等な雑居宿しかなく、困惑しているとき大工の源七の母親が同情して宿泊をさせてもらった。また翌日の出発時、快晴となり、馬は高いので徒歩で弥彦に向かったと記しています。前日の不快が、出発時の快晴により気分良好になったようです。

【護国神社】 新潟市中央区西船見町

新潟市内より海岸方面へ向かうと小高い丘陵になります。この地区には学校が多く学園地区になっています。ここに護国神社が有り、境内の一角に芭蕉堂があります。現在は中がコンクリートで固められて、入口も塞がれています。この堂の壁にも書かれている句は「海に降る 雨や恋しき 浮身宿」です。その脇には墓塚がありますが、市内の他の寺の境内にもあったような？本家本元はどちら？

新潟は戊辰戦争での激戦地となり新政府軍、奥羽越列藩同盟軍共に多くの戦死者が出ました。この



護国神社の設立は戊辰戦争での戦死者の慰霊のためです。

また、日清、日露の戦争、第二次世界戦争で亡くなった多くの兵士が慰霊されています。

今日は村上市、胎内市、新潟市内と多くの場所を見学しました。時間も午後四時を回り、日が翳ってきました。これから途中、佐潟湖に寄り、宿、岩室温泉を目指します。佐潟湖はラムサール条約で保護された野鳥の楽園です。到着したときは真っ暗闇と思いましたが、目を凝らすと野鳥の群れが湖上に浮かんでいるのが見えます。句碑の場所まで携帯電話の明かりを頼りに進みます。わが馬鹿カメラは暗闇の中の句碑を写せませんでした。句碑の文言は「あかあかと 日はつれなくも 秋の風」でした。



夕闇迫る佐潟湖の野鳥 2012.12.12



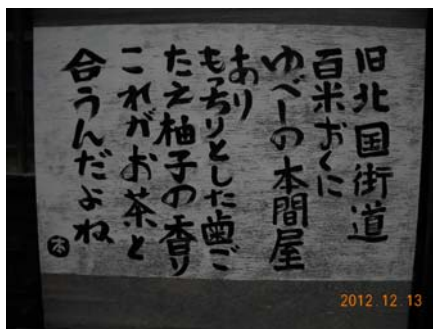
芭蕉さんも通った北国街道 2012.12.12



岩室温泉は、西蒲原郡巻町でしたが、今では新潟市と合併して新潟市西蒲区となっています(ここまで新潟市ですか?)。泊まった富士屋は今年(2012)1月に温泉を掘り当て、自家源泉自慢の宿となりました。夕食は個室、瀬波の宿では出なかった鮭の酒浸しが有り一同感激。堀川さん、畠さんの合奏コンサートもあり楽しい夕餉となりました。

翌朝、またもや好天、雪は残っているものの期待度大きく、バスの中へ。

芭蕉さんたちは新潟より、一気に弥彦まで行き、一泊ののち明神(弥彦神社)を参拝しています。私たちは、その前に天皇家御用達、江戸時代創業の「柚餅子」の老舗・本間屋(新潟市西蒲区福井)に寄りました。看板がなければ普通の民家と変らない作りです。店の前座敷に上がり、試食「旨い！」の声が上がるとおば様たちは先を争って(?)購入、あっという間に品切れとなりました。



越後路の続きは5月号で紹介。

【文責・専務理事】